



3歳児のクラス



国民的歌手の WFWP バングラデシュ副会長が学校を訪問

オセアニア ソロモン諸島

「ニューホープアカデミー」幼稚園運営支援

概要：2011年2月に首都ホニアラにて、WFWP オーストラリアの支援を受け開園した幼稚園の運営支援を、2013年に開始。

3～5歳児が対象。政府指定の幼稚園カリキュラムに加え、海外（日本、アメリカ、韓国）のカリキュラムを参考に改善している。1学期10週間の4学期制。

授業料は、1学期約7,500円で、私立幼稚園の中では低額。行事の資金等は母親たちが募金活動で賄っている。人格教育を取り入れた道徳教育に力をいれ、質の高い教育を提供している。

保護者達が教育熱心で、父母勉強会、読み聞かせ習慣の推進を図っている。

進展状況

【2017】

- 幼稚園をクムアベニューに移転。売店を設置した。
- WFWP オーストラリアより iPad 40 台の寄贈があり、5歳クラスの希望者 20 人に対して IT クラスを開始した。ソロモンの幼稚園では初めての試みで、保護者にも喜ばれている。
- WFWP 日本の会員の娘である大学生がボランティアとして活動に参加。園児たちに対し、絵本や紙芝居の読み語りをを行い、折り紙や英語の手遊び歌を指導した。又、絵本の修理作業を行い、本の扱い方のポスターを作成、寄贈した。
- 本棚と日本から持参したプリンターを寄贈。
- WFWP ソロモン会長兼ニューホープアカデミー校長のセリナ・ガロ先生が来日。千葉市内の幼稚園を視察した。

【2018】

- 小学校仮教室3クラスが建設され、小学校第1期生が入学。
- 学校登録がホニアラ市に受理された。2020年より登録校として認可され、教育省より教科書や教師の給与等が支援される。
- 倉庫を改装して、各クラスを広くした。園児たちが活動中教室から出てしまわぬよう、各教室に簡易ドアを付けた。メインロードからの砂埃を防ぐため、屋根下と窓に専用のネットを設置。食器棚にも埃除けの扉を作った。
- ニューホープアカデミーの理事の子供たちをモニターとしてプログラミング教育を実施。アプリをインストールすれば PC とテキストで自主勉強も出来、十分に教育可能であることがわかった。

児童数	3歳児	4歳児	5歳児	小学1年	合計
2017	40	35	35	—	110
2018	35	34	35	32	136

その他実施国：ジャマイカ

アジア バングラデシュ

「ジャイギール小学校」運営支援

概要：現地 NGO がマニクグンジ県シンガイル郡ジャイギール村に建設した小学校で、1994年より WFWP 日本で黒板、机、椅子、教科書等を支援してきた。開校当時は藁ぶき屋根の校舎で土の上に座って授業をしていたが、1997年に、WFWP 日本が派遣した日本の青年たちが手伝って、レンガ造りの校舎に建て替えた。

幼児から小学5年生まで7つのクラスがある。午前は低学年、午後は高学年の授業を実施。

バングラデシュは小学5年生まで義務教育で政府が無償教育を行っているが、農村では子供が労働力に駆り出されることから小学校の脱落率が高い。そのため、「子供達を必ず学校に通わせる」という条件で、母親対象の小口融資プログラムを2007年より学校が実施している。

村の85%の子供達がこの学校に通っており、私立学校であるが公立学校の教科書を使用して着実に学力がつく教え方をしているため、成績が大変良い。地域の教育委員会が行う卒業生（5年生）対象の統一テストでは総合点で近年1位を保っている。

この学校ができるまでこの村には大学に行った子供はいなかったが、今では名門ダッカ大学に行く卒業生を輩出することができるようになった。

現地 NGO が運営から撤退し、WFWP バングラデシュが運営を引き継いだ。資金不足のため、WFWP 日本で2015年に支援を再開した。2017年に政府から公立学校として認可され、2019年に私立から公立学校に移行する。

進展状況

【2017】

- 国民的歌手である WFWP バングラデシュ副会長（当時）が学校を訪問し、児童や父母を激励した。
- 11月に地域の卒業生対象の統一テストが実施され、35人が参加し全員合格。地域の学校別成績では、27校中第1位を獲得。

【2018】

- 11月に地域の卒業生対象の統一テストが実施され、46人が参加し全員合格。成績優秀者8人に政府の特別奨学金が授与された。地域の学校別成績では、27校中第1位を獲得。
- 農村地域でありながら、小口融資のおかげで児童の脱落がなくなり、女子の数も男子と同数、または男子を上回る学年もでてきた。

児童数	男子	女子	合計
2017	187	155	342
2018	189	160	349

識字教室支援

アジア バングラデシュ

識字教室運営支援

概要：オールドダッカ地区スラム街マジッド・サルディ・コミュニティに現地女医が開設した無料診療所の中の教室にて、スラム街に住む母親を対象に2008年1月に開講。母親が教育を受けていないため、薬の与え方を誤り治療効果が出ないことから、母親対象の識字教室が必要と考えた。学校に通えない子供たちも通ってくるようになったことから2015年に子供のクラスを新設した。授業料は無料。

【母親対象の識字教室カリキュラム】

- ベンガル語、数字、時刻、計算、生活に密着した単語等の読み書き
- 私達の生活：家族、親戚、友人、食事、洗濯、料理、買い物等に関する絵を見ながら説明文字を読み、出てくる単語や会話を覚える
- 私たちの社会：学校、市場、役所、病院、モスク、銀行、仕事場等に関する絵を見ながら単語、説明文字を読み、出てくる単語、会話を覚える

各クラス週5日90分で1年間教える。

教育を受けていない女性たちが小学1年生レベルの読み書きができることは現地では画期的なこと。

【子供のための識字教室】

小学校1年から5年生までの児童が午前9時から午後12時まで毎日学ぶ。授業の後、スラム街の貧困家庭の子供達のため、栄養を考慮した給食を提供。定期的に健康診断を行い、栄養剤も補給している。必要な子供には、回虫の駆虫剤、ビタミン剤、皮膚病の薬、注射薬、抗生剤なども投与する。

進展状況

【2017】

- 中級コースの母親のうち数名は卒業後就職することができ、生活が改善できたと喜んでた。

【2018】

- 勉強している婦人たちは、毎日働きながら子供の面倒や食事の準備もしなければならぬため、定期的に集まること



給食をとる子供達

が難しい状況。また、理解度にも大きな差があり、最初は出来る人と、遅れている人と2組に分けていたが、先生が1人であり時間的に難しいことなどから、一緒にやることになった。そのため、遅れている人が追いつけるように何回も繰り返してやっており、進展のスピードは遅くなったが、出来る人はますます自信が出来、遅れている人に教え、助けるようになった。

- 婦人達は、文字が書け、読めるようになり、計算もできるようになることで、今までは家政婦が主な仕事だったが、商店や衣類工場など働ける場が広がってきた。子供にも少しは教えることができるようになった。
- ダッカの貧しい地域では多くの子供が学校にも行けず働いていて、病弱な子供も多いが、この教室に通う子供たちは基礎的な勉強もでき、身体的にも健康になっていくので親達から大変感謝されている。
- ユニセフなどから保護されていた4人の子供たちを受け入れた。
- この教室を卒業した子供達は職業訓練学校などに入学できるようになった。

生徒数	子供	母親初級	母親中級	合計
2017	30	7	5	42
2018	30	15		45

アフリカ エチオピア

識字教室「ワン・ホープ・ガーデン」運営

概要：1997年から2000年まで実施していた女性のための識字教室を、政府から要請があり、首都アジスアベバ市ワレダ8地区の「ワン・ホープ・ガーデン」内で2014年に再開。1年間で、アムハラ語、基礎算数、基礎英語のほか、家族計画、モラル教育、育児、ビジネスの基礎知識についても学ぶ。週2回午後90分の授業を実施。

2016年度から性別・年齢にかかわらず学びたい人々を受け入れている。

進展状況

【2017】15人の成人女性・児童が学び、10人修了した。

【2018】18人の成人女性・児童が学び、10人修了した。

参加者の喜びの声

「地方にいる親戚から送られてくる手紙が読めるようになったが、自分で書くことはまだできないので、継続して学びたい。」

「携帯電話が使えるようになった。」

「これまで物売りの仕事をする時誰かいないとお釣りの計算ができなかったが、今は一人でできるようになった。」

